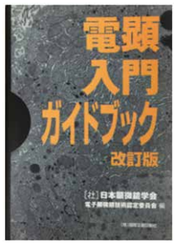
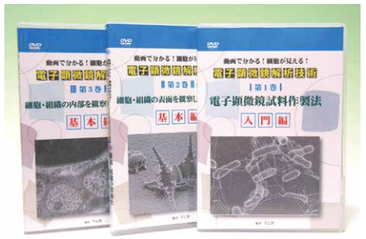
技術者の育成

本学会では顕微鏡技術の向上のため技術者の育成に取り組んでいます。学術講演会や研究分科会のセミナーやチュートリアルをはじめ、各分野の専門家を講師とした「電子顕微鏡大学」や大学・民間の研究者による「電顕サマースクール」を開催して、顕微鏡法の学理や機器操作の実務を習得する場を提供しています。関東支部会が中心となって試料前処理を含む実技講習会も行っています。毎年秋季、全国3会場（東京・京都・福岡）において電子顕微鏡技術認定試験を実施し、一定以上の知識と技量を有する方を電子顕微鏡技士（一級、二級）に認定しています。また初学者向けの「電顕入門ガイドブック」や生物試料前処理DVD「電子顕微鏡解析技術」などの監修も行い、顕微鏡技術の普及も積極的に進めています。



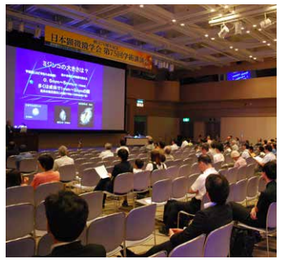
電顕入門ガイドブック



生物試料作製DVD

公益事業活動
市民公開講座・ワークショップ・理科教育支援

本学会は会員の研さんで得られた研究成果を広く社会に還元し、産業界の発展に貢献することはもちろん、多くの市民のみなさんに研究の意義や成果、生活とのかかわりをわかりやすく伝えることにも力を注いでいます。学術講演会やシンポジウムなどのイベントでは、市民公開講座や市民ワークショップを開催しています。また、賛助会員企業と協力して、教育現場に卓上SEMを持ち込み、最新の顕微鏡を触れる機会を子供たちに提供しています。


市民公開講座

市民ワークショップ

入会案内

- 欧文誌「Microscopy」（年6回発行）電子版をweb上で無料で閲覧、ダウンロードできます。また、和文誌「顕微鏡」（年3回発行）が無料配布されます。
- メーリングリストに登録し、学会主催や共催の講演会、分科会等の研究討論会やセミナーの案内など役立つ情報を入手できます。
- 学術講演会・シンポジウムなど学会が主催する行事の多くで、参加費等の会員割引が適用されます。
- 学生会員は、指導教員の推薦で学術講演会、シンポジウムの参加費が免除されます。

企業の皆様には賛助会員として本学会活動をご支援いただきたくお願い申し上げます。
なお賛助会員にはつぎの特典が付与されます。

- 「Microscopy」と「顕微鏡」の学会誌を2冊無料配布されます。
- 学術講演会、シンポジウム要旨集を2部送付いたします。
- 学会行事（支部会・分科会・研究会含む）をお知らせします。
- 学会ホームページ上から賛助会員会社ホームページへのリンクが可能になります。

入会ご希望の方は入会申込書に必要事項をご記入の上、学会事務局へメール、FAXまたは郵送にてお送りください。入会申込書は下記の学会HPよりダウンロードして下さい。なおご記入要領等も学会HPに掲載していますので、ご参照ください。

＊学会HP　http://microscopy.or.jp
＊日本顕微鏡学会事務局
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場1-21-13　廣池ビルディング402
TEL：03-6457-5156／FAX：03-6457-5176
E-mail：jsm-post@microscopy.or.jp

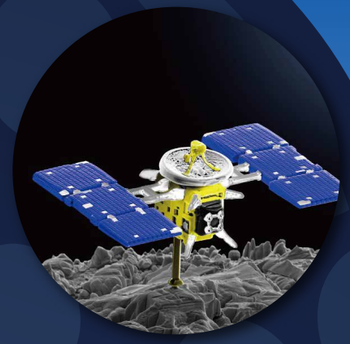
年会費

- 正会員（国内）　9,500円　学生 6,000円
  （海外）12,000円　学生 8,500円
- 賛助会員(1口) 60,000円

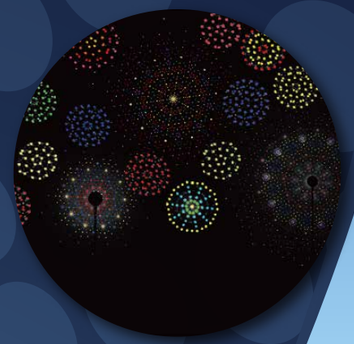
＊2021年度から年会費が下記の通り改訂されます。

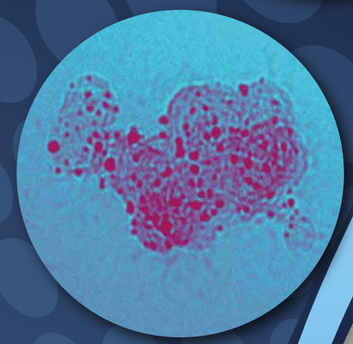
- 正会員（国内）11,000円　学生 3,000円
  （海外）13,500円　学生 5,500円
- 賛助会員(1口) 60,000円

入会申し込み・問い合わせ先
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場1-21-13 廣池ビルディング402
公益社団法人 日本顕微鏡学会
E-mail：jsm-post@microscopy.or.jp　TEL：03(6457)5156　FAX：03(6457)5176



公益社団法人 日本顕微鏡学会
The Japanese Society of Microscopy
ご案内





顕微鏡学会学術講演会では毎年写真コンクールを開催しています。これらの写真は最近の最優秀作品賞の一部です。会員が日頃、顕微鏡で観察する中から、面白い形や現象の瞬間を捉えた顕微鏡写真です。学会HPには過去の受賞作品を掲載しています。

“顕微鏡で見ること”からはじまる、新たなシーズ・ニーズ探索の時代

公益社団法人日本顕微鏡学会は、1949年に創立した「日本電子顕微鏡学会」を母体に、プローブ顕微鏡などのNew Microcopyを加えて、2002年「日本顕微鏡学会」に改称し、ライフサイエンスから材料科学まで幅広い領域において、様々な顕微技術の研究・開発を通じて、科学の発展と社会の進歩に寄与することを目的とした学術団体です。

日本顕微鏡学会は、顕微鏡学の発展と普及、および会員相互の連携強化に努めています。

http://www.microscopy.or.jp/

第59代会長
幾原　雄一
（東京大学大学院教授）

会長からのメッセージ

近年の顕微鏡学は大きな転換期にあります。収差補正技術の普及、バイオサイエンスへの応用、クライオTEMの躍進、プローブ顕微鏡の性能向上、その場観察技術の高度化、超高感度カメラ技術、解析ソフトウエアなどの高度化は目覚ましいものがあります。これらの技術は材料、物質、生体の解析に応用されつつあり、顕微鏡の応用分野においても革新的な展開がなされています。顕微鏡学はまさに、今後の科学技術の発展のためのキーテクノロジーになっています。

本学会は、我が国の顕微鏡学の推進、普及に大きく貢献すべく、以下の5つの課題に取り組んで行きます。まず、①"科学技術を先導する顕微鏡学の推進と普及"について、最先端顕微鏡法をタイムリーに現場に普及し、研究開発に資する展開を進めていきます。次に、②"若手研究者・技術者の育成"は、学会の将来を左右する課題であり、顕微鏡学の奥深さ、すばらしさ、重要性をしっかりと若手研究者に示し、若手が自ら顕微鏡学に興味を持つようなしくみを構築していきます。また、③"産官学の連携と交流"の強化を図り、④"顕微鏡関連大型プロジェクトの推進"において、プロジェクト推進委員会で議論を集約し、大型プロジェクト立案に向けた各省庁への働きかけや提案を積極的に行ってまいります。さらに、⑤"国際化へ向けた取り組み"も重要で、多くの海外研究者の参画を推進する仕掛けを構築し、国際化を図ります。これらの課題を克服していくことで、本学会をさらに発展させ、我が国の顕微鏡学の推進に貢献できるよう努めていきます。

学会の理念

日本顕微鏡学会は、顕微鏡学の学理探求と顕微鏡学に関連する様々な研究開発を振興し、それらを生命科学や材料科学をはじめとするあらゆる学問領域に活用し、その発展を通じて、社会や文化の発展に貢献することを目的とする学術団体です。

1931年(昭和14年)に発足した日本学術振興会第37小委員会(電子顕微鏡小委員会)を基に、1949年(昭和24年)に日本電子顕微鏡学会が創設され、その後、プローブ顕微鏡や原子間力顕微鏡などニューマイクロスコープの領域を網羅して、2003年(平成15年)に日本顕微鏡学会と改称されました。会員は、電気、化学、物理、医学、生物などの様々な研究分野に亘り、大学の研究者をはじめ、メーカからユーザなど民間企業の研究者などから構成されています。このような異分野の研究者が交流することによって、学問領域を超えたユニークな議論ができる場を提供しています。

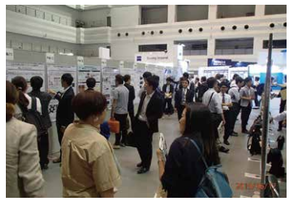
沿革と組織

1931年(昭和14年)	日本学術振興会第37小委員会 (電子顕微鏡小委員会)設立
1949年(昭和24年)	日本電子顕微鏡学会が創立
2003年(平成15年)	日本顕微鏡学会に改称
2012年(平成24年)	公益社団法人化

●会員数 **(2020年4月現在)**	正会員1,610名（海外会員含む）、 学生会員106名
●賛助会員	76社
●支部	4支部（北海道、関東、関西、九州）
●分科会/研究部会	11分科会、3研究部会
●常設委員会	11委員会
●主な事業活動	学術講演会・シンポジウム・電顕大学・ サマースクール・技術認定試験・ 学会各賞の表彰・分科会/研究部会活動・ 支部講演会・関連学協会との連携

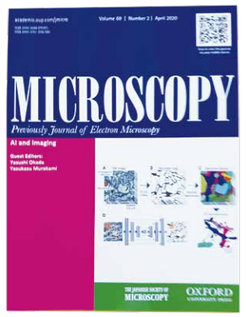
学術講演会・シンポジウム

会員相互の研究発表や技術交流の場として、例年、春季に学術講演会、秋季にシンポジウムを開催しています。学術講演会には会員を中心に約1000名が参加しています。3日間の会期に500件程度の研究成果が発表され、白熱した議論が交わされています。シンポジウムでは、テーマに沿った話題性の高い講演を提供しています。学術講演会やシンポジウムには賛助会員ほか企業による商用展示やワークショップ、セミナーも開催され、最新装置や技術情報が紹介されています。



欧文誌「Microscopy」・和文誌「顕微鏡」

本学会では、欧文誌「Microscopy」(旧 Journal of Electron Microscopy)、和文誌「顕微鏡」を刊行しています。「Microscopy」は世界的に通用する査読欧文誌として会員に最新の研究動向を提供するとともに、会員の研究成果の発信源となっています。また、「顕微鏡」では研究総説をはじめ、観察技法や解析技術などの解説記事を特集し、また初学者向けにわかりやすい顕微鏡法の基礎技術講座も提供しています。



学会表彰

本学会事業の一つとして顕微鏡分野に関わる研究の奨励や研究業績の表彰を行っています。長年に亘り高い水準の業績を上げ、会員の模範となる個人に与えられる「学会賞（瀬藤賞）」をはじめ、直近2カ年に学会誌に掲載された論文の中から優秀と認められた論文に対する「論文賞・和文誌賞」、若手研究者を奨励するための「奨励賞」、顕微鏡の応用技術開発に功労のあった個人に対する「技術功労賞」を設け、厳正な審査により選考された正会員、研究論文を表彰しています。

分科会・研究部会活動

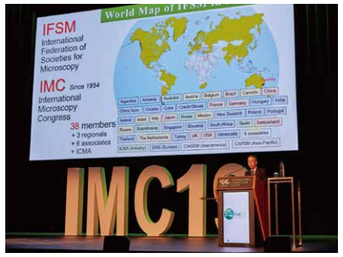
本学会はバイオからマテリアルまで多岐に亘る研究領域の研究者より構成されています。異分野での交流は新たな発見や革新的な発明に繋がる機会でもあります。本学会では、より深く、あるいは、より幅広い議論が可能な場として、分科会、研究部会の活動にも積極的に取り組んでいます。分科会では、超高分解能顕微鏡法、走査電子顕微鏡、分析電子顕微鏡など11に及ぶ学術領域において、継続的、普遍的、基盤的テーマに取り組んでいます。研究部会はトピックス的あるいはad hocなテーマの研究に取り組んでいます。そこで得られた研究成果は、学術講演会やシンポジウムのほか、研究発表会等で報告し、広く会員と共有することで研究水準の底上げにも寄与しています。

支部活動

本学会には、4つの支部、1）北海道支部、2）関東支部、3）関西支部、4）九州支部を設置して、支部単位で学会全体の事業推進を図っています。支部ならではの地域特性に着目した研究活動を通じて、会員の課題を解決する場を提供したり、また、支部主催の講演会では、他の支部との交流も盛んに行われています。特に、最近は、シンポジウムを開催都市の支部会と合同開催することによって、地域の活性と参加の拡大とを図りながら、有意義な討論の場を提供しています。

国際交流

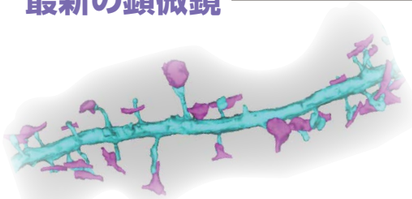
グローバル化する社会の中で、顕微鏡学の研究領域においても国際交流を図ることは、より高い水準での研究を推進し、学会の国際化を進める上からも重要と考えています。本学会はIFSM(International Federation of Societies for Microscopy)の一員として、これまで、京都(1986年)、札幌(2006年)と2度の国際会議を開催しました。また、中国、韓国、台湾と協力して、東アジア国際顕微鏡会議(EAMC：East-Asia Microscopy Conference)の運営にも参画し、アジア地域の顕微鏡学の発展に努めています。さらにまた、国内の学術講演会においても、諸外国の著名な研究者を多数招聘しての国際セッションや二国間セミナーなどを開催するなど、積極的な国際交流を進めています。



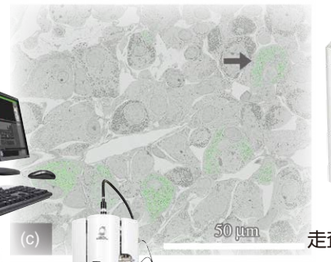
若手研究者の奨励

顕微鏡学は科学技術の発展はもとより、新機能材料の開発や病気の原因究明、再生医療など社会の様々なシーンで役立っています。顕微鏡学を継承して、より良い社会の実現をめざすことは本学会の使命の一つでもあります。そのため、本学会では学問の継承者である若手研究者の育成に一段と力を入れています。国内の学術講演会やシンポジウムでは、学生会員の参加費を免除し、また、学生優秀ポスター賞を授与するなど研究を奨励しています。若手研究者の国際会議への参加を支援して海外の研究者との交流を推進しています。若手研究者の会員も微増ながら増えつつあり、若手研究者による情報交換や様々な議論の場として若手研究部会が設置されました。学会表彰の「奨励賞」は若手研究者による優秀な研究成果に対して授与されるもので、若手研究者の斬新な着想と実行力が顕微鏡学の将来にとって非常に重要で継続して積極的な研究支援を進めていきます。

最新の顕微鏡

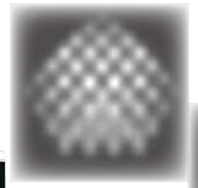
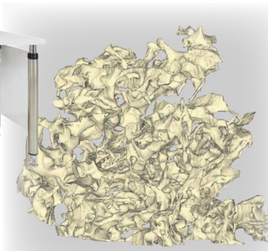


卓上型走査電子顕微鏡



走査型プローブ顕微鏡

透過型電子顕微鏡



電解放出型走査電子顕微鏡